

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（紀北町）概要

- 1 対話市町 紀北町（紀北町長 おのうえ としかず 尾上 壽一）
- 2 対話日時 令和6年1月24日（水）14時35分から15時20分
- 3 対話場所 紀北町生涯学習センター2階集会室
（北牟婁郡紀北町相賀488番地1）
- 4 視察場所 畦地水産（北牟婁郡紀北町相賀122番地39）
紀北町役場海山総合支所（北牟婁郡紀北町相賀495番地8）
※白石湖、銚子川河口及び相賀橋を視察
- 5 対話項目
（1）観光誘客事業について
（2）公共交通の確保・維持について

6 対話概要

対話項目（1）観光誘客事業について

（町長）

観光誘客について、私は自然、食、宿、人情、そしてそれをどうやって発信していくかが大変重要になってくると思います。やはり1つの町では小さな発信力しかございませんので、地域おこし協力隊の皆さんが一生懸命発信していただいています。三重県の方がスケールが大きく、そこから発信してもらうことは大事なので、観光の方でどんどん発信して欲しいという思いです。

これも知事の挨拶でしたが、県南部にお客さんをお呼び込むのが私たちの使命だと力強いお言葉をいただいたので、それもあって今日、この観光関係のお話をさせていただきたいと思います。

先ほど申し上げたように観光には食材の部分がございます。紀北町は伊勢えびや銚子川のアユ、先ほど見ていただいた渡利牡蠣がありますが、河口閉塞によって牡蠣の生態系が崩れてしまう部分があります。今、銚子川は防災対策の観点で堆積土砂を撤去していただいています。1次産業を守るという観点からいくと、水の無い時期でも河口閉塞を起こさないようにする、これが渡利牡蠣などの産業を守ることに必要ですので、引き続き堆積土砂撤去を行っていただきたいと思います。これについては早くから毎年のように堆積土砂を取っていただいておりますので、これから夏の牡蠣の種子を守るという観点からも、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

それから宿ですが、紀北町では古里地区の料理民宿、ホテル季の座など高級なホテル、孫太郎オートキャンプ場、キャンプ inn 海山と、ソロの方、お値打ちな方、ハイグレードな方までいらっしゃる、そういう宿が十分揃っております。

そして観光資源においては、奇跡の清流銚子川がNHKスペシャルで取り上げられてからオーバーツーリズムということで、円卓対話を夏にお願いしたのは、夏の

銚子川の状態を見ていただきたいと思ったからです。それについては、三重県の方が県道南浦海山線の管理に一生懸命になっていただいて、路上駐車のことなどもやっていただいています。

銚子川流域を使って、令和4年にモンベル主催の「シー トゥー サミット」、令和5年は、ジャパンエコトラックの「バイク&ハイク」をやっていただいて、紀北町はこういう自然を生かした体験型の観光を求めているところなので、これからもやっていきたいと思います。三重県の協力がないと、こういった事業もいろんなことも進めていけないということです。

そして、山では熊野古道があります。紀北町としても連合会の皆さんとともに熊野古道 20 周年を盛り上げようということになっています。ただ、熊野古道はそれぞれの峠で守っていただいていたのですが、高齢化が進んで参りまして、連合会を作っていただいて、今連合会で全体を見守っていただいているという形です。これは 20 周年を契機にもっともっと頑張っていかなければいけないと思っています。

山の中でも便石山というのが SNS で、ものすごく流れていまして、土日になると若い方が集団で登られて、象の背という巨岩で写真を撮ったり、いろいろと危険なのでどうかなと思いますが、そういうことで来ていただいております。

海、川、山、宿、そして食は先ほど言ったように渡利牡蠣などもございます。東紀州も含めて紀北町を丸ごと売っていききたいので、三重県の積極的なご支援をいただかないと、小さな町が単独でどれだけ頑張ってもこちらに流れを引き寄せるといのは難しいと思いますので、ご協力のほどをお願いします。

(知事)

町長が言われたように紀北町はよいところがたくさんあります。それを他の人、県外の人にもそうですが、県内の人にも訴えていかなければいけない。これは大事なことだと思います。でも、私もそうですが、三重県の人には遠慮しがちな人が多いです。あまり自分のことを言いません。人が並んでいると前に行くことをしない。人が前に出てくるとちょっと引いてしまうという感じがあるのは、三重県人の特性であると思います。私は生まれた時から三重にいますのでよくわかりますが、観光はそれではいけないのかなと最近思っています。

私は外国で日本の観光を売ったときもありますが、やはりそういうときは前に出て売っていかなければなりません。よいものが多くあっても、黙っていると人は来てくれない。これは紀北町長が言われるとおりで、発信力が大事です。

私が知事になってから、観光予算を令和3年度の約 12 億円から令和4年度は約 24 億円に増し、特に宣伝に力を入れていこうということでやっています。東京の地下鉄や鉄道駅に固定の、あるいはデジタルで変わっていく宣伝もやり始めました。まだ効果はこれからであると思いますが、今まで伊勢市、志摩市が単独で宣伝しておられ、三重県全体としては出していなかったもので、それを始めます。そういうところから発信力をつけていかなければいけないので、やらせていただきますが、これからはそういった形でのプロモーションをやっていこうと思います。そのプロモー

ションの最たるものが、ちょうど今年が熊野古道の世界遺産登録 20 周年ということで一つの節目となります。10 周年のときもお客さん来ていただきましたので、20 周年も来ていただきたいと思います。令和 6 年 2 月に、私が和歌山県知事と奈良県知事に呼び掛けて 3 県で知事が東京へ行って、可能であれば首長もおいでいただいて、熊野古道サミットをやりましょうと言って、熊野古道を東京で売り出そうと思っています。名古屋や大阪も良いのですが、東京の人は収入が多いので、たくさん来ていただいて、こちらにお金を落とさせていただくということで、東京から人を呼んでくるというのが大事であります。それから外国からも呼んでこなければいけないのですが、まずは東京の人に来ていただこうと、そういうことをしています。発信力はこれからも色々なよい所を、紀北町のよい所を出していきたいと思います。山、川などの自然、そして食と宿。宿も本当によい所があります。私も見させていただいて、泊まらせていただいて、本当によい所が多いと思います。

土砂の撤去につきましても、先ほど見させていただきました。銚子川と船津川、砂州ができます。遠浅と伺いましたが、海も近いので波の力で大分砂が来る。何とかしなければいけないということで、渡利牡蠣の視察をさせていただいた時もお話を伺いました。よく街の中であまり工事をやっても困るという話もあるということも聞いていますので、我々としては予算を確保させていただいて、ご要望あるときに撤去ができるように準備をさせていただきますので、また紀北町長から言われればしっかりやっていきたいと思っています。

それから、銚子川のオーバーツーリズムの問題です。夏にはお伺いできませんでしたが、交流空間みやまの方々にもお手伝いをいただき、河川環境の保全もやっていただいています。啓発活動もやっていただいています。お礼を申し上げたいと思います。県としましても、夏場に週 2 回のパトロール、あるいは河川敷の駐車場としての許可を出して、路上駐車が少なくなるようにさせていただいているところです。引き続き紀北町と一緒にさせていただきたいと思っております。

(町長)

銚子川のオーバーツーリズムについて、平成 30 年に NHK スペシャルが放送されてからこういう状況になったのですが、今、三重県の方に大変ご協力いただいて、今は路上駐車も少なくなり、河川の上流と下流へ分けて、お客さんが分散して、随分と良くなっていて、今後はもっとマナーの良い人にお越しいただきたいというぐらになってきましたので、これからも後押しをよろしく願いしたいと思います。

そして、土砂撤去の話も心強いお話をいただきましたが、1 つ肝心なこと言い忘れていました。海の拠点の「城ノ浜プール&ビーチ」ですが、城ノ浜一体が県営都市公園熊野灘臨海公園です。そこは、国や県や旧紀伊長島町がお金を出して、約 200 億円近いお金がかかっています。今、随分と時が経ち、「プール&ビーチ」のプールのほうも、以前あった孫太郎プールが老朽化して使えなくなったので、代替のような形で作っていただきました。そういうのが、まだ熊野灘臨海公園の中では色々なところにあります。

その中でもコテージとか、色々改修していただいている、紀北町は三重県には大変予算を多くつけていただいている方だと、自分自身は思っています。しかし、せつかく 200 億円近い予算をかけたインフラをこのまま老朽化に任せるというのもどうかと思いますので、そこら辺をやっていきたいと思います。

それと都市公園の中にある、フィットネスホールという大きい体育館、それからテニスコート、そういう施設も老朽化しています。紀北町は合併して、スポーツ施設が 2 町分ありますので、小中高の小さなクラブの方が来ていただきたい。そういうときに活用できるのがテニスコートであり、フィットネスホールなので、そういったところはお金かけていただきたいなと思います。

紀北町では、スポーツパンフレットを作って、三重県内の高校等へ訪問・送付させていただいています。夏は涼しく冬は暖かく、スポーツ施設の使用料無料、それから宿の手配から施設の手配までワンストップでできるという形でやっています。そういった面も含めて、三重県には PR していただきたいと思います。

(知事)

先ほど紀北町長が言われましたが、やはり観光で南の方に人に来てもらわないといけない。デスティネーションサウスということでインフィニティプールを広く会見でも言わせていただきました。

2037 年、北にリニアの駅ができます。そこからどうやって南の方へ人に来てもらうか、これは県にとっても非常に大きな課題でありますので、しっかりとやらせていただきたいと思います。シー トゥー サミットもスタートの時に関わらせていただきましたし、見るべきものが多いと思いますので、しっかり対応していきます。

それからインフィニティプール、これで多くのお客さんに来ていただいているというのは本当によいことだと思います。その横にある城ノ浜体育館について、先ほどお話ができましたが、利用促進検討会ができていますので、そこでどんなふうやっていくか相談もしながら、町のご意見を聞いて進めていきたいと思っております。

対話項目（２）公共交通の確保・維持について

(町長)

公共交通と言うことで、紀北町も高齢化が進んでいまして、車を運転することができない状況の方もどんどん増えております。

紀北町の公共交通は鉄道、路線バス、交通空白地有償運送、自主運行バス、そういったものを利用して行っているところです。

おでかけ応援サービス「えがお」は、三重県内、全国的にも、高い評価を今得ているところで、平均 1 日、20 運行、1 番多くて 37~8 運行しているような状況で、この「えがお」を開始したことによって、紀北町で 16 あった公共交通の空白地域というのが、一応目標的にはゼロになりましたので、バス停や駅からラストワンマイルを全部それでカバーできるというような形の制度を作っております。

これはありがたい制度があり、紀北町のお金をあまり持ち出しなしでやっていた

だいていますので、これはまだまだ充実させていかなければいけないというところ
です。

路線バスですが、コロナ禍で乗車率が下がってしまいました。本来路線バスは15
人以上でないと、地域間幹線の補助対象から外れてしまうというような現状で、コ
ロナ禍で10人未満になってしまいました。今のところ、コロナの緩和措置の延長
で9月31日までは、その状態でも補助が出るということではありますが、尾鷲長島
線、島勝線がこの基準を満たせないと補助が出ない、というような形になりますの
で、我々としてはこれがなくなるとは大変だということで、今、名古屋大学の教授
の方もお招きして、地域公共交通計画を一生懸命策定しているところです。令和5
年度中に作らなければなりません、路線バスの輸送量上げるのはなかなか難し
いです。バス通学を行う高校生にも約半分近くの定期購入額の補助を出しており、
それから高校生の皆さんが自転車で鉄道駅まで来る間、雨の日なども多いので、そ
ういう方にバスの提供ができないかということで工夫もしていますが、コロナが収
まってきてもなかなか難しい状況になってきています。

そして、お願いしたいことですが、今紀北町が公共交通会議をやっております。
その中に三重県の方も入っていただいて、一生懸命やっていただいております。そ
の中で、利便増進実施計画の話ですが、尾鷲長島線・島勝線を計画の中にはめてい
ただいて、三重県での公共交通会議で認めていただくと、お聞きしたところによ
ると最低人数が15人のところ3人以上であれば、我々も継続できますし、国からも
予算をいただけるということなので、ぜひとも三重県の方で、公共交通の会議等で、
利便増進実施計画、これを何とか、紀北町尾鷲市にあてていただきたいと思いま
す。国の補助が出ます。そうすると、県の方にも補助をお願いできたらありがたい話
でございます。

紀北町としては、高齢者が多くなればなるほどお出かけする手段を多様に用意し
ないとなかなか難しいので、高齢者の方が家に引きこもるとそこからフレイル、介
護、そういったものに入っていきます。そういう意味では、外にお出かけする状
況を一生懸命作るのが行政の仕事だと思っておりますので、ぜひとも利便増進実施計画をよ
ろしく願います。

(知事)

私は大学を出てから運輸省に入りました。運輸省で最後に仕事したのは自動車局
長という仕事です。バス、タクシー、トラック整備業、それを見ている局長であり
まして、ちょうどその時に、この利便増進実施計画を法律の中に入れ込む法改正を
させていただいて、国会で説明をさせていただいたのでよくわかります。

今、免許返納と言われていますが、車を運転できないとスーパーにも、病院にも、
墓参りにも行けないということで、私が自動車局長のときに東京の霞ヶ関で話して
も若い人にはわかりません。若い人の出身地を聞くと、東京、埼玉、千葉、神奈川
とかで、昔は私たちみたいに、三重県から、岐阜県から、九州から来る人がいたの
ですが、今の若い人は都会の人が多く、この実態がわからず、免許返納したら

いいじゃないですかと言われます。

そこはやはり紀北町長がおっしゃったように、公共交通機関を作るしかありません。昔であればバスがありました。私たちが高校の時ぐらまで三重交通の路線がありました。これも無くなっています。どんどん人が減っているからです。今までのような右肩上がりの人口をもとにしたものはもう作れません。そうすると違うものを作っていかなければならないということで、名古屋大学の加藤先生が色々な知識を持っておられますので、色々な知恵をいただきながら、どういうことをやっていくのかを今紀北町で考えていただいている、この「えがお」はすごく良いサービスだと思います。事業者と協力しながらボランティア輸送をきちんとやろうということで。令和5年11月に東京で全国知事会があり、令和5年12月に国土交通大臣に要望もしたのですが、その時に、三重県内の好事例ということで紹介させていただきました。こんな良いものがありますというお話をさせていただきました。全国でも先進的な事例だと思います。

ただ、今の地域間幹線バスですが、紀北町長からお話しいただいた島勝線と尾鷲長島線の1日当たりの利用者が尾鷲長島線で7.9人、島勝線が5.2人です。これは基準が15人で、15人いないと補助金が出ません。なので今は相当厳しいですが、コロナ禍の時にこの15人という基準がとりあえずなくなっているので、何とか持ちこたえています。これは紀北町長がおっしゃったように計画を作りますと、基準が3人に緩和されますので何とかかなと思います。県も計画をしっかりと応援をさせていただこうと思っております。

公共交通というのは、あまり県はやっていませんでした。この辺りでいうと中部運輸局と、紀北町と尾鷲市などの基礎自治体とやっていましたが、大きな問題になってきますし、もう少し県もやらなければならないのではないかとということで、この円卓会議を担当している地域連携部を、地域連携・交通部と令和5年4月から変えまして、交通を一生懸命やってもらうようにしております。

来年度も予算をつけまして、どんな交通のありようが考えられるのかを、それぞれの自治体でいろいろ実験をしていただこうと思っております。我々も相談しながら、何ができるのか、まずは実証実験ですが、その結果を踏まえて、どういう交通の形を作ったら、地元の皆さん、高齢者だけではなく、学生にも便利に移動していただけるのか、これは地域でそれぞれ違いますが、地域で違うからといって、実は今まで思考停止になっていた部分があります。地域で違いますが、ある程度のモデルみたいなものがあるという話をこの間もしていました。これは私が35年間国で交通行政をやってきた結果であり、信念でもあります。こんなことをやらせていただきたいと思っております。

(町長)

知事がそういう立場にいらっしゃったということで、大変心強く思います。

先日の町村会の会議でも知事が、257平方キロメートルの自治体と10平方キロメートルの自治体では違うという話をいただいたと記憶しているのですが、まさにそ

れぞれ地域の特徴があるので、一律にはできませんが、紀北町としては、この利便増進計画をしっかりとあてていただければ、それぞれの地域に見合った、紀北町は山間部の間に谷筋の集落がありますので、三重交通に委託するにしても大変長い距離を、お願いしなければなりません。ですので、そういった意味では、今、紀北町も加藤先生にさせていただいていますので、知事をご存じの先生が紀北町に入っただいているということは、三重県の考え方も取り入れながら、紀北町の公共交通会議の中で計画はできているものだと思っておりますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。